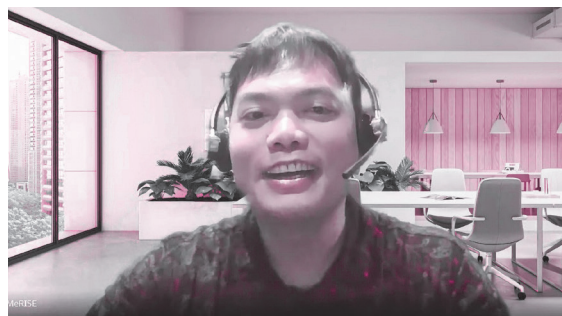


編集部が潜入! VOL.4

グローバル企業 CREFIL株式会社 をレポート

「新しいテクノロジーやグローバル展開にチャレンジし、メンバーが大きく成長できる会社をつくりたい」。そんな思いから前職を離れ、その2日後、語学力を身につけるべく3カ月の海外留学に飛び出した丹治雄弥氏。その丹治氏が現在CEOを務めるのがCREFIL株式会社です。社員全員の前での英語プレゼンや海外留学制度の実施など、絵に描いた餅に終わらないグローバル人材育成の様子に迫るべく、直撃取材を行いました！

会社の福利厚生で英語が学べる！



▲講師のDindo先生（左）と、グルーブレッスンを受けるエンジニアの甲斐さん（右）

📅 勤務時間内に英語塾を開催

週1回60分、業務状況に合わせて日程を調整し合い、グルーブレッスンを実施しています（参加には、「5分間オールイングリッシュでプレゼンする」ことが必須）。編集部が見学した日は、neurological（神経学の）など難易度の高い単語が出題されるクイズや“Are noise-cancelling



headphones to blame for young people's hearing problems?”（ノイズキャンセリングイヤホンは若者の聴覚問題の原因になっているか）がテーマのスピーキングなど、独自のプログラムでレッスンが行われました。



CREFIL 株式会社

社名の由来である“Create Field”の通り、「我々に関わるすべての人たちの『夢を実現させる場所をつくる』」をミッションに掲げるデジタルマーケティングカンパニー。ITコンサルティング・エンジニアリング・マーケティングの3領域を中心にしたビジネス支援とスポーツ業界向けスクール運営・管理システム「Spohabi（スポハビ）」を提供する。



公式ホームページ
<https://crefil.com/>

✈ セブ島への語学留学を実施

丹治CEOの創業時からの悲願だった語学留学制度。毎年10月に“English Presentation Event”を開催し、投票で勝ち残った5名が留学権を手にする仕組みです。

また、家族や友人との時間を大切に海外のバカンス制度を参考に「サバティカル休暇」を導入。留学に行けなかった人が海外の文化に触れる機会としても活用されています。



丹治雄弥CEOインタビュー

—英語学習の福利厚生が非常に充実していますが、業務にはどのように役立っていますか？

英語を勉強していたとしても、「半年ぶりにしゃべろう」というシチュエーションではなかなか言葉が出てきません。弊社のグローバル案件ではNYに本社があるアパレルやジュエリーの大手企業の開発チームとミーティングすることがあります。英語に慣れ親しんだ状態で業務にあたれているので学習の効果を感じます。

—そういった福利厚生の仕組みを考えるうえでどんなことを大切にされていますか？

強制された学習ほどつらいものはないですし、身につけません。なので“English Presentation Event”のように、自発的な参加を促すことをすごく大事にしています。ちなみにプレゼンの機会を多く作っているのは、「結局重要なのはしゃべれることだ」と思うからです。英語で話の組み立て方を学んだり、スライドを作ったり、わかりやすい表現を工夫したりするなかで日本語のプレゼン力も向上しています。一度英語でプレゼンすると、みんな「そのときに比べたら日本語のプレゼンなんてたいしたことない」と思うようで、一気に成長するのを感じます。

ほかには、継続した取り組みになるよう、業務時間内に実施できるようにしています。以前、早朝か深夜か土日を使って英会話学校に通っていたことがあったんですが、特

に土曜朝一のレッスンはしんどかったです。「行くこと自体がゴールになる」というような経験を社員にはさせたくありませんでした。今導入しているやり方は、時間の調整もしやすいですし、業務時間内だからちゃんとやらなきゃという気持ちになって良い効果を生んでいるのを感じます。

—今後はどのようなグローバル企業を目指していけますか？

創業時からの目標の1つとして、国内と海外の売り上げ比率を50:50にしたいという理想があります。それに加えて、他国とのパートナー協定も広げていきたいと思っています。われわれは東南アジアでの先進的なプロジェクトの実施例を多く持っているの、つい先日そのノウハウを韓国のコンサルティングパートナーに教えるイベントを実施しました。

また、スポーツ業界向けサービス「Spohabi」を展開しているので、亜細亜大学と国際大会を共催したり、海外でプロの選手と一緒にスポーツできる企画を組んだりしています。

年内にはセブ島に会社を立ち上げる予定です。



取材を終えて

今回お話を伺った福利厚生メニューには「CEO自身の語学学習者としての経験」という裏付けがあり、単なる「制度」ではなく、「上達の近道」という社員へのプレゼントのように感じられました。丹治CEOは現在も毎週の英語塾に参加し、プレゼン大会にも出場しています。レッスン

の場では肩書は外され、同じ「学習者」という立場になりますが、上下関係などにはこだわらず学ぶ姿勢を見せ続けています。CNNニュースの視聴を学習に取り入れているというお話も伺えてうれしかったです。